

▲「浜辺の残響」打ち上げられた貝殻と、寄せるさざ波が響き合う。| 桃谷 瑠莉



共立がいま進めている、 環境学習への取り組み

近年、日本では“環境”問題が改めて注目されています。

共立女子大学・共立女子短期大学では、環境問題の諸相をテーマにした授業をはじめ、自然科学系、人文・社会系、実学・スキル系などのさまざまな学びを組み込んだ、すそ野が広い、特色のある環境学習を行っています。

本学の環境に関する授業・取り組みの一部をご紹介します。

Message | 学長メッセージ



共立女子大学・共立女子短期大学
学長 入江 和生

近年、世界中で大きな自然災害が頻発しています。自然が人間の手に負えないものになってきているという印象があります。でも、もともと、人間こそ自然にとって手に負えないものであり続けてきたのです。

人間も自然界の一員ですが、ややもするとその自覚が薄れてしまうところに問題があります。環境問題とは、つまるところ、いかにして人間を自然界の一員としての定位置につけるか、ということなのでしょう。

本学は以前から環境問題にかかわる授業が多く、本学学生は「自然に」環境問題についての見識を深めています。これからは、それをもう少し意識的にやりたいと考えています。

環境教育は、深い意味での人間教育なのです。

Project | 本学の取り組み

グリーンカーテン プロジェクト

国際学部4年 小杉 磨由

2013年夏、全国的に猛暑となり、節電対策に関心が高まる中、本学では二号館中庭にグリーンカーテンを設置しました。今年で3年目となるこの取り組みですが、本年度はヘチマの栽培をしました。グリーンカーテンの効果は緑があることで見た目も涼しくなるだけでなく、日光を遮ることで壁に熱を溜めないで熱の放出や温度上昇を防げる、葉の蒸散作用によって気化熱を奪い気温を下げるができる等多くのメリットがあります。照りつける日差しを一身に受けながら鮮やかな黄色の花を咲かせ、風に揺られ校舎2階まで蔓を伸ばしていました。そして10月初旬には、立派な実をつけたヘチマを収穫することができました。収穫後は「ヘチマたわし」を作ることで、先人の知恵と自然を感じました。次年度以降もこの活動を続けることにより、多くの学生が環境問題やエネルギー問題について考えてくれる機会となれば嬉しく思います。





2013年度「共立アカデミーエコツアー」レポート

共立女子大学・共立女子短期大学は、共立アカデミーを通して、学生はじめ卒業生や一般の方々にまで、広く学びの場を提供しています。2011年度からは特別企画として、様々な場所に赴いて、実体験から環境について学べるエコツアーを開催し、ご高評をいただいております。2013年は、

- ・「銀座ミツバチプロジェクト」
- ・「災害対策船「あらかわ」乗船ツアー」

ここでは、それぞれのツアーレポートを紹介します。

Report 01

銀座ミツバチプロジェクト

平成25年9月9日(月)、エコツアー「銀座ミツバチプロジェクト見学会」を開催しました。銀座のビルの上で、普段は見ることのない養蜂活動を見学することができました。参加者の多くが、ミツバチに直接触れたり、巣箱の蜂蜜を直接指ですくって味わったりと、感動するようなミツバチとのふれあいができました。

また代表の田中淳夫氏より、プロジェクトの成り立ちから、ミツバチの生態、養蜂を取り巻く国内外の状況、現在の活動内容、ミツバチだけでなくビジネスとしての農業や地域づくりの取組を説明していただき、たいへん興味深く学ぶことができました。

最後には、銀座でとれたハチミツでつくったマドレーヌをおいしくいただきました。

「銀座」という土地がもっている有形無形の資産、職人の街でもあり、商業の街、それらをまとめて実感できた一日でした。



Report 02

災害対策船「あらかわ」乗船ツアー (江戸・東京の治水事業)

今でこそ、タイの大洪水や定期的に発生するフィリピンや中国の水害を他人ごとのように眺めているが、半世紀前の東京は毎年水害に襲われていた。東京の東側、一口に本所深川と呼ばれていた地域は、日常化していたと言ってもよいほど、川の水に浸されていた。今でも隅田川周辺を歩けば川面の方が道よりも高い。江戸川区には満潮時ゼロメートルの場所が全体の7割あるという。江東区、墨田区等も、同様の危険を抱えている。東京の多くの土地は水害に弱いのである。徳川が豊臣からほとんど無理やり移動させられるまで、この辺りには大きな町は生まれなかったのである。

徳川以前にも治水の努力はあった。熊谷に旧熊谷堤が残っているし、埼玉南部には点々と堤の跡がある。しかし、大規模な治水は徳川からだ。この土木事業は、江戸のインフラとしての治水だった。それでも十分とは言えぬまま明治になり、大正を過ぎ、昭和5年になって荒川放水路が出来た。それでもまだ“大水”の不安は付きまとっていた。水害の可能性が激減したのは長い長い水との戦いの結果である。日本近代化よりもっと長い年月をかけて、ようやくたどり着いたのだ。その一環を見学できたのが9月19日のエコツアーだった。

よく晴れた良い日だった。まず荒川の知水資料館を見学し解説を聞いたのち、閘門まで川下りをするのだが、知水資料館での解説は忘れていた水害との戦いを思い出すのに十分だった。なかでも、隅田川の堤に対して、角度を変えて築かれた日本堤の役割などは、知識はあっても、これまで、ピンとくるものがなかった。吉原への道筋としてしか考えていなかったこの堤は、浮世絵などで見ると、今からは考えられないほど高い堤で、そばを流れている小さな音無川には過大な堤としてしか見えない。しかし、その解説では、旧荒川の洪水は、幸手の辺りから堤が切れて浅草、蔵前、日本橋と水浸しにしかねない大災害だったと教えてくれた。いわば江戸の物流動脈が寸断されることになるのだ。



気持ちの良い川遊びをした上で、息の長い防災を肌で感じることでできた一日だった。

文芸学部 教授 内田保廣



家政学部
建築・デザイン学科
林田 廣伸 教授

1976年多摩美術大学大学院美術研究科修了。
外資広告代理店のアートディレクターとして21年間勤務。
毎日広告デザイン賞、ニューヨークフィルムフェスティバル
銅賞、ACC賞などの各種広告賞を受賞。日本デザイン学会、
日本広告学会所属。現在も忙しい合間をぬって公益性のある
事業やNPOのポスター、マークなどの制作を行っている。

主な担当科目

グラフィック・デザイン演習、CG演習、デザイン概論 ほか



CIと共立女子大学 林田ゼミ協働展示・発表会

これまでに、地球環境パートナーシッププラザ（環境省と国際
連合大学の協働事業として設立）、東京・銀座ソーニビル、ト
ウキョウマリニチドウギャラリー、世界銀行情報センター、
JICA地球ひろば、丸の内・住友信託銀行、スターバックスコー
ヒー・ジャパン銀座マロニエ通り店、三菱地所丸の内さえずり
館等で展示と発表会を行っている。

グラフィック・デザインの手法を使うことによって、 より環境問題を理解していく

Education policy 生活者の目線で「環境」を考え、メッセージを発信すること

家政学部は人間がいかに生きていくかを探る
場であり、そのために必要な知識や技術を学生
が習得できるよう、私たち教員は道筋を立ててい
かなければならないと思っています。私はグラ
フィック・デザインという手法を通して、もの創
りの目的を学生たちに理解させ、どのようなもの
を創り、どうメッセージしていくべきなのかを体
感させる責任があると感じています。

毎年、国際環境NGOのコンサベーション・イ
ンターナショナル・ジャパン(以下「CI」と)と協働

でポスターの制作と発表を行っています。環境
問題の難しさは、ほとんどの人が環境問題には気
づいているけれども、行動を起こしづらいこと
です。「今、私たちになにができるのか。」共立女子
大学の学生の素朴な等身大の視点でポスターを
制作していくことで、展示作品を見てくださる皆
さんとともに環境問題のキャッチボールができ
るのではないかと考えています。家政学部で学
ぶ環境とデザインには、そういった大きな目的と
使命があると考えています。

Main class 広告制作のメソッドを活用して、公益性のあるテーマに取り組む

2003年から、地球温暖化や、水と衛生など、
環境をテーマにしたグラフィック・デザインの取
り組みをゼミで続けています。2005年から現
在まで生物多様性をテーマにCIと協働展示と発
表を行っています。

テーマからどのようにしてアイデアを導き出
すか。それはキーメッセージとキービジュアル
をしっかりと構築することです。そしてそれを表現
するデザインの技術が必要です。勿論、これがな

かなか難しいのですが、これらを導き出す広告制
作のメソッドを用意して、学生に理解させ、それ
らを活用することにより、単なる感覚ではない作
品ができると信じています。作品制作のプロセ
スは彼女たちの環境意識を向上させます。この
大学を卒業して、社会に出ていった時、また家庭
をもった時にも、環境に対する気持ちが持続し行
動につながっていくことを、私はいつもイメージ
して授業に取り組んでいます。



国際学部
国際学科
細野 豊樹 教授

1994年東京大学大学院法学政治学研究科修了。公共政策学修
士(MPP)、法学修士。研究分野は政治学、アメリカ研究、環境学
など。環境庁での行政経験と専門知識を生かしながら、アメリカ
合衆国の環境政策や地球環境問題について、研究・分析を続け
ている。またインターネットなど、情報技術が政治に与える影響
についても研究。最近の主な業績に「気候変動の科学をめぐる政
治—アメリカと国際機関における政策論議のモデル化」、
「アメリカ現代政治の構図」、「オバマ政治を採点する」などがある。

主な担当科目

環境・科学の諸課題、政治分析の基礎、アメリカ文化論、
地球環境論 ほか



住民の要求で作られた市街地再開発事業の模型

身近な環境と関わる公共政策の策定において、行政および事
業者は、複雑な計画を市民に分かりやすく説明する責任を負
う。写真は、横浜市北部の駅前再開発事業の模型。イラスト
では不十分だとする住民意見に応じて作成された。

環境問題についての知識を体系的に伝え、判断の基準を養う 自分が住む街の環境を調べ、参加型の意識を育む

Education policy 環境リテラシーの意義、争点につき判断する市民としての教養

3.11以降、日本における環境・エネルギー政
策は曲がり角にきています。こうした中で、市民
からの政策へのインプットが、今までになく重要
です。真の「政治主導」とは、官僚任せが政治家
任せになることではありません。市民の声が、政
治と行政を動かすことなのです。

政治主導が強くなっていくと、市民の環境リテ
ラシーがますます大事になります。地球温暖化

対策にしても、原子力の安全にしても、賛否両論
のさまざまな意見が飛び交います。このため、だ
れが言っていることを信用できるかを、市民が判
断する教養が求められるのです。

共立女子大学では、こうした要請に対応すべ
く、理科系と文科系の専門家が、学問の専門性、
体系性を保ちながら、わかりやすい環境教育に取
り組んでいます。

Main class 身近な環境問題から入って、知識を広め掘り下げ、自分の考えを持つ

本年度の「環境・科学の諸課題」は、政治が専
門の私のほか、理科系の先生方2名の3人の専
任教員により、「環境と科学」をテーマに、3クラ
スが開講されます。私の授業は、典型7公害(大
気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、地盤沈下、土
壌汚染)を始めとする基本を体系的にわかりやす
く講義する入門課目の位置付けとなっています。
教養教育科目は、3・4年次生も受講対象なので、
わかりやすさだけでなく、密度が高い内容を盛り
込むことにもこだわっています。

近年、福島第一原子力発電所事故による放射

線の健康影響も取り上げていますが、放射線は専
門家の意見が分かれる難しい問題です。授業で
は学生にさまざまな観点からの記事を配り、判断
の難しさを伝えていきます。また、問題意識、参加
意識を高める観点から、自分たちが住む街の環境
について調べて書くレポートを、毎年課していま
す。身近な環境がテーマなので、学年・学部学科
を問わず、読み応えのあるものが多くて、嬉しく
思います。

自分たちが日々、暮らしている“環境”を意識させることで、 社会の仕組みへの興味と自主的な行動力を養う

Education policy 街の話題、ファッションへの興味から「環境への気づき」を育む

生活科学科では、生活に関する実践的な知識・技能の習得を養成目的の一つにしています。私たちに身近な衣服、生活道具や空間は、とりまく環境とともに変化するという視点から、歴史や風土、経済や世界情勢といった社会環境が生活に影響を与えることを、まず理解してもらいます。同時に、演習や学外授業を通じて、地球や自然環境

といった大上段の環境だけが対処すべき問題ではなく、日々の生活や人々の装い、街や地域などの、より身近な環境について考察する必要性を教えます。ライフスタイルを変えることで解決できること、またその可能性を、学生一人ひとりが自発的に考え、行動できる主体になってほしいと考えています。

Main class 流行に流されないために流行を知る。環境とは何かも自分で考えていく

「生活デザイン演習」では、彼女たちに身近なスタジオジブリのアニメを題材に、環境を考える授業を進めています。『もののけ姫』では、人間が生み出した科学技術が森林や動物を消滅させてしまうという、自然と人間の相克がテーマになっていますが、娯楽として見てきたアニメの中で、実は語られていた自然破壊の現実を、自分たちはどう受け止めていくべきなのか。彼女たちの興味や感じたことの視点に立って授業を進めます。

教養教育科目の「デザインの現在」では、近代化とデザイン様式の変容を扱いますが、消費者と

して、時には生産者として活動する私たちが、現代社会の根底にあるデザインと消費の関係を考えるにあたって、ファストファッションと流行の問題や、「あなたのTシャツはどこから来たのか」といったグローバル社会を扱ったものを題材にします。

また、物理学者として著名なエイモリー・ロビンズの『分散型エネルギー社会』なども紹介し、直面しているエネルギー問題を中心に、環境デザインの重要性について考察を進めています。



短期大学
生活科学科

渡辺 明日香 准教授

1996年共立女子大学大学院家政学研究科修了。2012年首都大学東京大学院人文科学研究科修了、博士(社会学)。専門は現代ファッション・色彩・生活デザインであり、若者文化・ファッションやデザインをめぐるコミュニケーション・情報メディアとのかわりなどを研究している。また、1994年より実施しているストリートファッションの定点観測をもとに、人々や街をとりまく環境の変化を実証的に捉えている。主な著書に「ストリートファッション論」「色のしくみ」などがある。

主な担当科目

ファッション・デザイン論、生活デザイン演習、色彩学 ほか



学生が親しみやすいDVD、テキスト

デザインする側や消費する側でなく、生産する側に焦点を当てたドキュメンタリー「女工哀歌」は、学生たちにリアルに響いている。また、カラー&デザイン研究室で公開している「ストリートファッションレポート」は各界からも注目されている。

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nyusi/street/index.htm>

社会でますます重要になっていく環境意識を、グローバルと リーガルを基準に読み解き、現在進行形の問題について考察する

Education policy 異なる文化を乗り越え、共通合意となった判断基準を学ぶ

私たちが環境問題について考えるとき、自分と自分のまわりから始めるのはもちろんですが、他者とのかわりに関するリーガル・マインド、そして世界がつながっているというグローバルな意識が大変重要なキーワードになります。環境保護と経済成長を両立させ、現在の世代のみ

ならず、後の世代の発展も持続可能にしようとする国際環境法を学びます。国家間の合意である条約が、いかにして成立したのかを考えることは、その底流を流れる法原則を知ることになります。社会に羽ばたく学生の皆さんとますます重要になる環境意識を育てていきます。

Main class 私たちが成し遂げてきた成果を学び、今日的な問題を理解する

「国際社会特論Ⅲ(国際協力)」の授業は、予防原則やサステナビリティなど種々の法原則に基づく環境保護制度を学ぶ授業です。環境保護は当然と感じている方が多いと思われるが、現実社会においては、私人の財産権の保護という法益も存在します。また、途上国には発展という課題もあります。環境保護を行うため、対立する法律上の利益をどのような形で妥協させてきたのでしょうか。この講義においては環境保護を国際法上の視点から捉えて考えていきます。具体的には、国際環境法が対象とする環境とは何かを

最初に学び、国際法の一分野として環境法があるのかを考察し、国際環境法がどのように発展してきたかを学んでいきます。成立背景、成立形式、義務の特徴、管理責任などについて、それぞれ専門的に考察し、また実際にあった事件、国際判例などを題材にして、より深く検討していきます。

その他にも、「南北対立を緩和する概念」、「環境保護と自由貿易は矛盾しないのか」「武力紛争という特殊な状況下で環境保護は可能か」など、今日的な問題も取り上げ、現在進行形の環境問題について理解を深めます。



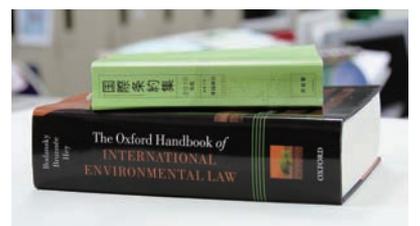
国際学部
国際学科

立松 美也子 教授

1995年上智大学大学院法律学専攻満期退学。専門は国家を主たる規律対象とする国際法。その中でも、とくに国家間構造の中で、いかに個人の保護を行うかをテーマとして国際人権法や外交的保護について研究を進めている。論文に「人権の普遍的保障」、「人の移動、難民」、「感染症」、「(以上、「地球的課題と法」所収)」、「公害」(「ヨーロッパ人権裁判所の判例」所収)などがある。

主な担当科目

法学概論、国際法I、国際組織論、国際社会特論Ⅲ(国際協力) ほか



授業で使用するテキスト類

「国際条約集」は環境条約すべてを網羅してはいませんが、度々利用することになる。授業終了時にはポロポロになってしまいうことも。事例によっては日本語の翻訳がない。自ら翻訳することは背景を読み解くためにも必須のプロセスだ。



家政学部
建築・デザイン学科
松本 年史 教授

1977年、東京芸術大学大学院美術研究科建築理論専攻修了。博士(国際文化)、芸術学修士、一級建築士、構造設計一級建築士。大学院修了後、木村俊彦構造設計事務所に入社、建築家とのコラボレーションで多数の建築設計に携わる。1988年、松本構造設計室を設立。1999年より2011年まで東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授。2011年より共立女子大学家政学部建築・デザイン学科教授。

主な担当科目

構造力学、構造計画、構造設計、建築材料 ほか



月山志津温泉「雪旅籠の灯り」ワークショップ

雪の旅籠を作って、昔の月山志津温泉の町並みを再現するイベント。他の雪まつりでは雪を積み上げて作るのに対し、自然に積もった雪を掘り込んで建物を作っているのが特徴。雪は溶けて水となり、周りの木々や作物の成長を助ける究極のエコ材料。地域の特性を生かした活気あるイベントとして、第13回「ふるさとイベント大賞」で最高賞「総務大臣表彰」を受賞した。

資源やエネルギーの使用や廃棄物を減らし、環境再生を最優先する「持続可能な社会」に求められる建築と構造を考える

Education policy 持続可能な社会に求められる大学教育

「持続可能な社会」に求められる条件は、「①生活の質の向上、②環境への影響の削減、③公平性の実現」の3つであると考えます。この問題に対する最近の社会の取り組みを見ると、「②環境への影響の削減」が主要テーマとなっていることが多いと感じますが、3つの条件がバランス良く充足されて初めて「持続可能な社会」が達成されるのではないかと思います。

家政学部は、この3つの条件の「生活の質の向上」に深く係わる「衣・食・住」環境分野の学科で構成されており、これからの持続可能な社会を達成するために重要な役割が期待される学部であると考えます。建築・デザイン学科は、「住環境の向上」に係わる問題を、建築とデザインを通して解決していくために必要な知識を身につけ、社会で実践していくための応用力を養う教育を行っています。

Main class 持続可能な社会に求められる建築教育

高度成長の時代の中で、日本の建築は高品質な材料と高度な建設技術によって、大きく発展してきました。しかし、高い経済成長と引き替えに、解決しなければならぬ環境問題や社会問題が生じています。

環境問題では、地球温暖化への対策として二酸化炭素排出量の削減が求められています。日本は世界第4位の二酸化炭素排出国であり、その1/3は建築関連のものであるといわれています。建築分野での二酸化炭素の排出を含めた環境負荷の削減は、持続可能な社会達成にとって不可欠な課題であると考えます。私の専門である建築の構造設

計の分野でも、鉄とコンクリートとガラスに代表される工業生産された材料は、建築の可能性を拡大してきましたが、同時に環境負荷も増大させることになりました。持続可能な社会に求められる建築を考える時、これまでのスクラップアンドビルドの建築スタイルを見直し、木や土といった自然素材の活用を考える教育が求められていると考えます。また地域性に目を向けることも大切で、その体験的教育の場として、積もった雪を利用して旅籠をつくる「雪旅籠の灯り」ワークショップを山形の月山志津温泉で地元の方々や学生たちと一緒にしています。



短期大学
生活科学科
岡田 悟 教授

1983年東北大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程満期退学。専門は近世住宅史。人の生活の容れ物である住宅からは、生活をとりまくインテリア空間や建築空間を通じて、多くのことを学ぶことができる。現在よりも科学や技術が未熟であった時代には、人は周囲の環境に敏感で、環境と上手に付き合いつながりながら生きてきた。現在においてもこうした知恵を活かした空間づくりに取り組んでいる。

主な担当科目

インテリア設計演習、インテリアCAD基礎演習 ほか



手描きとCADを使用した授業

手描きとコンピュータを使ったCAD(コンピュータ支援設計)とは、車の両輪のような関係であり、両方を共に学習するのが生活科学科の伝統。また、テキスト類は「住まいとインテリアデザイン」「建築設計資料集成」といった基礎的な知識やデータが載せられたものを用い、授業ではその応用力を高める方針である。

日々の暮らしを支えるインテリア空間こそ“環境”そのものであるという認識に基づいて、自分とその周囲を検討、考察する

Education policy 異なる価値観のぶつかり合いが新たな地平を生み出す

生活科学は生活者の学問であり、生活者は生産者と消費者の両方の性格を共に持つものです。つまり、生産者はしてあげる側の、消費者はしてもらう側の人間といえます。今まで学生諸君はしてもらうことが多かったと思いますが、今後はしてあげることができれば社会で信頼や収入を得られませんか。

学生時代はしてあげる人になる準備期間といえ、してあげる価値観を獲得する時期です。高校までとは異なる教育の中で、どのような価値観を発見すること

が出来るでしょうか？

環境の問題に限らず、従来思い描いていたイメージとは異なることを授業で聞いたりすることと思います。さらに、何を言っているのかさっぱり分からない先生がいればラッキー。自分とはかけ離れた価値観を持っているが故に分からないのであって、つまりは、自分にない価値観の宝庫なのです。異なる価値観をぶつかり合わせ、大いに混乱して新たな地平が開けるのです。

Main class 環境を空間という形で設計し、表現する孤独で厳しい作業に挑む

学生に「インテリアって何のこと？」と尋ねると「家具のこと」「カーペットやカーテンのこと」「壁飾りや置物のこと」などの答が返ってきます。いずれも間違いではありませんが不十分です。一方、「インテリアの反対語は？」と尋ねると答えられる学生は少数です。正解はエクステリア。門扉やフェンスを指します。

インテリアの領域が文字通り家具から置物までの「内部の」即ち「室内の」ことから扱うという時代は過ぎ去り、今は人が発生させる空間を扱うという考えが主流です。扉まわりは人が開けて通って閉めるという

点で人が発生させる空間であり、建物内であっても屋外にあっても間違いなくインテリアの要素です。

こうした新しい概念に立てば「インテリア設計演習」、「インテリアCAD基礎演習」はまさに環境を空間という形で設計し、表現することに他なりません。同時に、設計や表現については、その意味は教えられませんが、設計案、表現作品の作り方のハウツーはありません。従って、各自が知恵を絞り出して作り上げる他はなく、挑戦的で厳しい作業であることを肝に銘じておく必要があります。

地球環境問題を正しく理解し、 循環型社会をめざす持続可能なシステムを構築する方策を探る

Education policy 地球や地球上の他の生物たちとの共存・共進化をめざす

地球の環境は地球誕生以来数多くの幸運が重なり合って創り出されたものですが、人間活動の急速な増大が温暖化やオゾン層破壊などの地球規模の環境問題を引き起こし、地球上の全生命の存続を脅かすようになりました。環境問題と共に、地球資源の枯渇・爆発的な人口増加・自然災害の大規模化と複雑化なども、早急に改善策を講じなければならない課題です。環境問題については1970年代以

降、多くの国際会議が開かれ様々な条約や宣言が採択されてきましたが、先ずは問題の本質を正しく認識して、共通の理解を得ることが出発点になるでしょう。その上で、今後も地球や地球上の他の生物たちと共存し共進化を続けるために、そして安全で安心な人生を全うするために私たちは何をなすべきか。この点を今、学生の皆さんに真剣に考えて欲しいと願っています。

Main class 地球環境問題・資源問題・自然災害について学び、自ら考える

教養教育科目の「環境・科学の諸課題」を1クラス担当しています。そこでは、地球への理解を深めるために地球と生命の歴史と現状について簡単に説明し、続いて地球環境問題の発生メカニズム・影響・対策と問題どうしの相互関係を中心に講義を進めます。更に、エネルギーやレアメタルなどの資源問題や地震・津波・火山噴火などの自然災害も状況に応じてテーマにします。2011年以降は、東日本大震災の原因となった巨大地震・巨大津波と原子力発電所の事故が提起した放射能の問題を取り上げ、災害への備えや発災時の対応なども検討しています。

家政学部の皆さんには、学部共通科目として「環境学概論」を開講しています。様々な講義や実習科目を通して環境学習に取り組んでいる学生たちが、衣・食・住・児童のそれぞれの専門分野に深く関わる環境課題に適切に対処できる実力を身に付けることをめざします。

これらの講義では、学生たちが各テーマを正しく理解して自ら考える力を養うために、私が担当する科目では「数学」「物理学」「統計学」などの考え方や知識が重要であることを伝えます。授業では、テキストの指定・資料の配布・映像教材の利用などによって、理解と関心を高めるように工夫しています。

家政学部
建築・デザイン学科
杉 憲子 教授



1976年東京大学大学院理学系研究科地球物理学専門課程修士、理学博士。
専門分野は固体地球物理学で、海洋プレートが沈み込む地域のテクトニクスと地震のメカニズムについて研究を行ってきた。1995年の阪神淡路大震災以後は自然災害を、また21世紀を迎えてからは環境科学を研究テーマに加えた。更にここ数年は、科学の教育と普及にも力を注いでいる。著書に「新版地学事典」など、論文に「海洋プレートの一生」「自然災害に対する意識調査」などがある。

主な担当科目

環境・科学の諸課題、数学、統計学、基礎物理学、環境学概論ほか



テキスト・ビデオ教材と放射線量・UV強度測定器

「環境・科学の諸課題」と「環境学概論」では放射線量測定器と紫外線強度計を利用して、現代社会の営みが環境に与える負荷を測定する。また、環境問題のハイブルともいえる「沈黙の春」「奪われし未来」「成長の限界」の内容を随時紹介する。

本学の環境問題にかかわる授業科目の概要を ホームページでご覧いただけます。



<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/kankyo/index.html>



ゼミの活動紹介 (環境防災関連)

本学家政学部 建築・デザイン学科 林田ゼミナールの学生たちによる協力・協働により、以下のビデオが完成し、ウェブサイトで紹介されています。

環境 NGO「コンサベーション・インターナショナル(CI)」の活動紹介ビデオ

持続可能な社会の構築のために CI が取り組む「生物多様性保全プロジェクト」について紹介しています

<http://www.conservation.org/global/japan/Pages/cijapan-activities.aspx>



「海洋管理協議会 MSC」の活動紹介ビデオ

『貴重な水産資源を未来まで～海のエコラベル認証制度 MSC』
環境問題を扱う Web「グリーン TV」に掲載されています。

<http://www.japangreen.tv/ch03biodiversity/11077.html>



共立アカデミー2014年度開講講座のご紹介

2014年度エコツアー

銀座ミツバチプロジェクト

銀座ミツバチプロジェクトは銀座の屋上でミツバチを飼い、採れたハチミツを銀座の一流の技でスイーツやカクテルにいただいている団体です。現在では銀座の13か所(1,000m²以上)の屋上が緑化され、花畑や野菜畑にして、ミツバチが自由に遊び回れるようになっています。講座の開催される5月は、採蜜の最盛期です。また4月に採れたフレグランスのような香りのするソメイヨシノの蜜を味わっていただけます。この機会に環境の街“銀座”を探してみませんか。



Navigator 田中 淳夫

株式会社紙パルプ会館専務取締役。紙パルプ会館の貸し会議室の講座で銀座の屋上を探す養蜂家が講師だったことがきっかけ。高安和夫氏とNPO法人銀座ミツバチプロジェクトを立ち上げる。現在株式会社銀座ミツバチ代表取締役社長

定員 ▶ 20名

日時 ▶ 5月12日 月曜日 13:30~16:00

銀座3丁目にある紙パルプ会館に集合ください。

13:30 銀座紙パルプ会館に集合(銀座3丁目9-11)
 13:45 銀座ミツバチプロジェクト 田中 淳夫氏による講演
 屋上見学
 15:30 質疑応答
 (銀座産ハチミツで作ったスイーツ&飲み物でティータイム)
 16:00 解散
 受講料 在学生 1,000円、卒業生 2,000円、一般 2,000円

2020年に向けて東京をよく知ろう!

東京都心の庭園めぐり
小石川後楽園

東京都心には、江戸時代以来の小石川後楽園や浜離宮など、いわゆる大名庭園が残っており、また、明治以後に整備された日比谷公園や皇居東御苑などの都市公園もあります。さらには靖国神社のような社寺の境内も、市民に貴重な緑の環境を提供しています。そこで、本講座では、じっさいにこれらの庭園や公園を訪問し、園内を歩きながら樹木や季節の花々を鑑賞し、また庭園や公園が誕生した歴史的な背景をたどってみたいと思います。



Navigator 山森 芳郎

共立女子学園名誉教授、工学博士、建築学専攻
 主な著書に、『日本の馬と人の生活誌』(編著)、『夢の住まい、夢に出てくる住まい』、『ソヴィエト・アヴァンギャルド建築』(共訳)、『日本の田園風景』など

定員 ▶ 20名

日時 ▶ 5月10日 土曜日 10:00~12:30

10:00 共立女子学園にて集合、概要解説

10:15 出発

10:45 小石川後楽園 大名庭園(水戸徳川家)

2時間前後の散策後、解散。

*行程は、当日の天候や状況などにより変更する場合があります。
 *地図、資料などをご用意いたします。

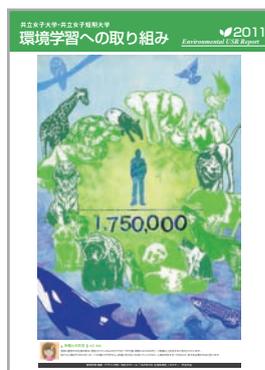
受講料：在学生 無料、卒業生 1,000円、一般 1,000円

お問い合わせ窓口

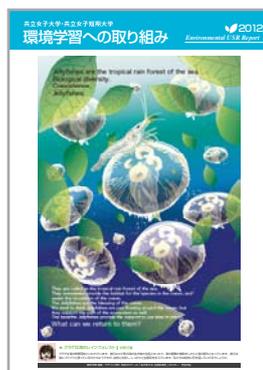
〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
 4号館学生課 共立アカデミー
TEL.03-3512-9981

▼ 環境学習への取り組み
バックナンバーのご案内

過去3年分のパンフレットが、
ホームページでご覧いただけます。



2011年度



2012年度



2013年度

共立女子大学・共立女子短期大学 環境学習への取り組み 2014

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

編集：学生課 監修：国際学部 細野豊樹(教授)、生活科学科 三井直樹(教授)

